

『広げよう つながりプロジェクト』

小城市立晴田小学校 6年 北島 誠一郎

みなさんは、ハラスメントという言葉を目にしたことはありますか。ハラスメントとは、相手の意に反する行為によって不快な感情を抱かせることであり、「嫌がらせ」を指します。ぼくは、数多くある～ハラスメントという言葉の中で「ソーシャル・ハラスメント」について調べてみました。

ソーシャルは、英語で「社会の」「社会的な」といった意味です。だから「ソーシャル・ハラスメント」とは、SNSを使った嫌がらせという意味です。ぼくは、最近、「SNS」という言葉をよく耳にします。最近のインターネットはとても便利だなと思います。

例えば、本などは、見たいページを開いたりするのに時間がかかるけどインターネットは、見たいものを検索したらすぐにそのページが開けます。

また、ラインもとても便利です。会うのが難しい友だちなどにも、簡単に連絡をとることができるし、グループラインなどを使うと一度に何人もの人と連絡をとることができます。とった写真をみんなと共有することもできます。

しかし、調べていくとあつかい方をあやまれば、とてもこわいということを知りました。

テレビ番組に出演した木村花さんがSNSへの書き込みに苦しんで、自殺しました。SNSには、「性格悪いし、生きている価値あるのかね」「ねえねえ。いつ死ぬの？」など花さんを傷つける書き込みが数多くされました。花さんは、その書き込みに苦しんで、自殺をしました。書き込みをした人は、悔じよく罪で起訴され、(科料9000円の)有罪判決を受けたそうです。ぼくは、書き込みをした人たちは、顔が見えないから平気で人を傷つける書き込みをすることができる

のだと思います。しかも、このようなひどいことをした人はたったの9000円を支払う罪ですむことが納得できません。命をお金にかえることができるのでしょうか。

たとえ9000万円でも花さんの命を買うことはできません。しかも、木村花さんが亡くなられた後も「あんたの死でみんな幸せになったよありがとう。」「地獄に落ちなよ。」といった、信じられない書き込みが続けられました。

記者会見をする木村花さんのお母さんは、本当につらく、悲しそうな声で記者会見をされていました。木村花さんのお母さんが、今望んでいることは、花さんのような犠牲者を二度と出さないことだと思います。花さんや花さんのお母さんの思いを、ぼくが、みんなに伝えたいと思いました。

誰か一人でも、そのような書き込みを止める人がいたら、花さんは、「自分のことをわかってくれる人がいる」と感じたと思います。そして、それは心の中で思っているだけでなく実際に行動にうつし、言葉にすることが大切だと思います。言葉にすることで、「そうだよ！」と言える人が出てくると思います。その言葉は花さんのように傷ついている人を救うこともできるし、ひぼう中傷をしている人のイライラしたり困ったりしている心も救えるかもしれません。

みなさん晴田小学校のつながりプロジェクトの一つ、「やめようなくそう ひぼう中傷」という言葉は、ソーシャルハラスメントをなくすためにもとても大切です。SNSへの書き込みで傷つく人がいなくなるように勇気を持って止めましょう。

みんなで晴田小学校のつながりプロジェクトを広げましょう。そして社会を明るくものにしていきましょう。